

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第2回行田市総合教育会議
開 催 日 時	令和2年12月18日(金) 開会：午後3時30分 閉会：午後5時
開 催 場 所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者(委員) 氏 名	石井直彦市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、飯塚千十世委員、大澤恵子委員
欠席者(委員) 氏 名	なし
事 務 局	学校教育部：吉田学校教育部長、荻原参事兼学校教育部長事務取扱、 諸貫学校教育部次長兼教育総務課長、 須永学校教育部主幹、上野教育総務課主幹 総合政策部：畔上総合政策部長、鴨田総合政策部次長兼秘書課長、 島田企画政策課長、蓮見企画政策課主幹、 渋澤企画政策課主任
会 議 内 容	議事 (1) 複式学級解消について (2) 通学区域の見直しについて 報告 (1) G I G Aスクール構想について (2) 中央小学校・星宮小学校の再編成に係る進捗状況について
会 議 資 料	・会議次第 ・総合教育会議構成員名簿 ・資料1 複式学級の解消パターン ・資料2 行田市公立学校通学区域に関する規則 ・資料3 G I G Aスクール構想について ・資料4 中央小学校・星宮小学校の再編成について
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者 5名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは石井市長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・はじめに、(1)「複式学級解消について」及び(2)「通学区域の見直しについて」事務局から一括して説明をお願いする。
事 務 局	<p><資料1及び資料2により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・北河原小学校及び須加小学校については、すでに複式学級が発生しており、これは子どもたちの教育環境として決して望ましいものではない。 ・子どもたちの教育環境を第一に考え、こうした状況を解消するためにはどういった方策が必要か、教育委員会として一定の結論を出していただきたいと考えている。 ・現在では、保護者や子どもたち本人から、児童数が多い学校で学びたいとの希望があったり、特定の部活動に入部したいとの希望があっても、居住する地区で通学区域が定められ、必ず特定の学校に通学しなければならない状況にある。これらについても、保護者や子どもたち本人の希望を叶えられるよう、条件を緩和するような一定の基準を定めても良いのではないか。 ・複式学級については、地域の理解を得ながらその解消を早急に図っていかなければならないと考えているが、委員の皆様のご意見を伺いたい。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級では一般的に、ある学年の児童を指導している間は、他の学年の児童は自習の時間とされている。しかし、行田市では、臨時的任用教職員を配置して自習時間を設けない工夫や、空き教室を活用して学年別の授業を行う等の工夫により、本来の複式学

<p>鹿山委員</p>	<p>級による不便さを子どもたちに経験させないように取り組んできた。こうした取り組みは一定程度評価してよいのではないかと考えているが、一方で、不便さを感じなかったため複式学級が続いてきてしまったとも言えるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで複式学級に対し、工夫を図り行田市が取り組んできたこと自体は素晴らしいと考えている。 ・一方で、そうしたさまざまな工夫によりごく少人数での授業を続けてきたことが、子どもたちにとって良いことであったのか、今となると疑問に感じる面もある。 ・少人数による授業では、子どもたちが授業内容に疑問や質問があった場合に、自ら手を挙げて質問せずとも、先生がマンツーマンで手取り足取り教えてくれる状況にある。 ・こうした状況は、子どもたちにとって学習面では恵まれているともいえる。しかし、将来的に子どもたちは必ず集団生活に飛び込むこととなり、多くの人の中で自らの立場を確立していかなければならない時期が訪れる。その際に課題を自ら解決できない人間になってしまうのではないかとの懸念もある。 ・子どもたちの将来を長期的に考えると、複式学級を解消し同じ学年に一定規模以上の児童・生徒がいる学校環境で共に学ぶことが、子どもたちにとって最良の教育となるのではないか。
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて連合音楽会に参加した時、少人数学校の演奏を見る機会があったが、全校生徒で参加し、内容も音楽の発表として素晴らしかった。その反面、この少ない人数で練習時間をどのように確保し、どんな全体練習をしてきたのか心配に思うこともあった。 ・子どもたちの競争心や多様なものの見方を育むことや、子どもたち自らが自分自身で考える力、学ぶ力を培うためにも、一定規模以上の児童・生徒のいる学校環境で学ぶことが子どもたちにとって一番なのではないか。
<p>飯塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級に対しては、そのメリットやデメリットを含め、保護者の理解も進んでいないように思われる。 ・きめ細やかで子どもたち一人一人に目の行き届いた指導が可能となる等、少人数による授業の良さもあるとは思いますが、さらに少ない複式学級となると、先生の授業に対する負担の増加といった課題も多いように感じており、子どもたちのためにもできるだけ早く、複式学級は解消すべきだと考える。
<p>鈴木教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとってよりよい学習環境とは何か、委員の皆様をはじめ多くの皆様よりご意見をいただき、手段を模索しながら子ど

<p>議長</p>	<p>もたちのことを第一に考えた方策を検討していくことも教育委員会の重要な仕事である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会としても、複式学級の解消に向けて知恵を絞って取り組んでいかなければならない。 ・北河原小学校については、10年以上も複式学級という形が続いてしまっていると記憶している。 ・例えば、教育委員会の規則等において、「複式学級が生じた場合、○年以内にその解消を図る」といった規定や、「複式学級が生じた場合、教育委員会が送迎支援を行う」等の、具体的な行政の責任や行動を明文化して定めることはできないか、委員の皆様の意見を伺いたい。
<p>鈴木教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北河原小学校については、平成18年度から複式学級が発生している。
<p>岸田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学級数という定義はあるが、現状では、複式学級になることを見込んだ定めはないのではないかと。 ・一方で、小規模校であるからこそ、児童・生徒一人一人に寄り添ったきめ細やかな指導が可能となっていたり、地域からの愛着や多大な支援が得られている事例もある。 ・教育委員会において、複式学級に関する規則等はあるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、各規則等において複式学級に関する定めはない。 ・複式学級の解消や、学校の統廃合を検討するにあたっては、多くの皆様の意見を聞きながら、地域の実情に応じて進めていくことになる。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市は離島でもなく、山間部地区がある状況でもないため、極めて特殊な地区であるとは言えない。本市の実情を踏まえながら、他自治体の事例を参考にすることも多いのではないかと。 ・小規模校での授業に関しては、当然メリットもあると思うが、マンツーマンによる指導中心の授業が、子どもたちにとって真の教育と言えるものなのか疑問に感じている。 ・確かに、テストの点数や成績だけを見れば少人数であることの方がメリットは多いかもしれないが、集団の中で学び生活することや、お互いに切磋琢磨し高めあうこと、競争意識の醸成を図っていくことが真の教育なのではないかと考えている。 ・これまで10年以上複式学級が続いてきてしまったことは異常な事態であり、統合、編入または自由選択等により、その解消を図っていくことは喫緊の課題である。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域の見直しと併せて、複式学級の解消に向けた基準の作成等についても検討してもらいたい。 ・学校教育の本旨を考えると、ある程度の規模の人数は必要である。今後は複式学級やその発生が見込まれる事態の解消に向けて、学校再編成とも連動しながら検討していかなければならないと考えている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見を伺う中で、一学年に女子児童が一人しかいないという学校があった。保護者としては、同クラスに男児も女児もいる普通の学習環境で学ぶことの必要性を感じており、こうした意見も今後の複式学級解消に向けた検討材料としていかなければならない。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級の解消については、教育委員会として確固たる意思表示を図るためにも、一定の基準等を設ける必要がある。そうした基準がなければ、地域によって複式学級への対応はまちまちとなり、市内で一貫性のない状況が発生してしまう。 ・また、通学区域の見直しについては、複式学級の解消とともに考えていく必要がある。保護者や子どもたち本人が望んでいる教育を受けられない、他校への通学ができず希望が叶えられないという現在の状況は見直すべきではないか。通学区域が前提とはいえ、保護者や本人の学校教育に対する希望を、市として見捨ててしまっているのか疑問に感じている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は、特別な事情がない限り、通学区域の学校に通学していただくこととなっている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級の解消については、校舎の改築とも関係しており、改築の計画等も見据えながら、複式学級の解消及び通学区域の見直しを考えていかなければならない。 ・通学区域の見直しにあたっては、市民に対する影響が非常に大きいことから、見直しを行う際には部分的な変更ではなく、根本的な変更が必要ではないか。 ・自由選択制は他自治体でも事例があり、行田市の地域特性を踏まえたメリットやデメリットもあることから、教育委員会としても研究はしていくべき。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域の見直しについては、行田市全体を自由通学区域、全校を自由選択制にするというのは非常に難しいのではないかと感じている。

岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、一学年の人数が一定数以下となった場合には、通学する学校の自由選択を認める等、柔軟な対応が可能となるような制度も必要ではないか。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・自由選択制のデメリットとしては、区域外への通学者が増えることによって、区域内の学校の少人数化がより加速してしまうことが挙げられている。 ・現状の通学区域の制度によって、地域の学校の規模が維持されることにもつながっているため、メリットとデメリットをしっかりと把握しながら、慎重に検討を進めるべき。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、通学区域によって地域の拠点としての学校が守られているという意見も理解している。 ・一方で、学習に対する保護者や児童・生徒本人の希望を叶えられない現在の制度についても疑問を感じており、通学区域制度というものに縛られてしまっているのかとも感じている。 ・これらに関しては、答えは一つではない。さまざまなケースを細かく想定したうえで、一定の方針を定めるべき時ではないか。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも、地域によっては、学校の自由選択のようなものが可能となっているケースもあるのではないか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・通学にあたり交通量の多い幹線道路を横断する必要がある、同じ自治会内で通学区域が分かれてしまっている等、特別な地事情がある場合において、そうした一定の地区を許容地域と定め、通学する指定校の変更を認めている。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日委員の皆様よりいただいた意見については、通学区域審議会にもぜひ投げかけてもらいたい。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的に自由選択制を導入する自治体があったが、現在の時流は通学区域制に戻っているとも聞く。 ・行田市の地域特性を踏まえ、子どもたちにとってどちらの制度が良いのか、どういった運用が良いのか、どういった面が取り入れられるのか検討していく必要があるのではないか。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域としては、定められた学校に通学することが最も良いと、私自身も考えているが、保護者や本人の希望に沿った柔軟な対応も同時に必要である。 ・通学区域制も自由選択制も、双方にメリットとデメリットがあり、自由選択制を市内全域で認めることは時期尚早であると考えてい

鈴木教育長	<p>るが、一定の条件となった場合に、保護者や本人に通学する学校の選択肢を与えることも、行政としては必要なことではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由選択制とすることで、区域外の学校への通学者が増えてしまう可能性もあるが、その一方で、地区によっては区域内コミュニティの結束が固まるということもあるのではないかと考えている。 ・通学する学校の自由選択制に対しては、一定の基準を設ける等、保護者や児童・生徒本人の気持ちや希望も考慮しながら、より良い方法を研究していく。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自由選択制の導入によって区域外への通学者が増加する可能性もあることから、導入に際しては児童・生徒数が減少した学校の統廃合も見据えたものとしなければならない。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・当然、学校の統廃合も見据え、総合的かつ多角的に検討を進める必要がある。 ・通学区域審議会については、いつ頃開催予定か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1月初旬まで委員を募集しており、今年度中に1回以上は開催する予定である。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域審議会についても、ぜひ早急に進めてもらいたい。 ・また、本日の意見も通学区域審議会へと投げかけ、多くの皆様に意見を伺ったうえで審議していただきたい。 ・委員の皆様も、複式学級を解消したいという思いを抱いており、私自身も令和4年度までには、北河原小学校及び須加小学校の複式学級を解消したいと強く思っている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にはよろしいか。 ・次に、報告事項の(1)「GIGAスクール構想」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p style="text-align: center;">＜資料3により説明＞</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに教育委員でも教科書選定に携わってきたが、今はCD-ROMが付属していたり、プログラミング学習が盛り込まれていたり、紙だけでは分からない部分も多い。

	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書も含め、子どもたちが学習で触れる映像や問題を、選定を通して見てきたが、時代に合わせて教科書や子どもたちの学習環境も大きく変化してきていると感じている。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの中に「Microsoft365」とあるが、こういったソフトを利用するための月額費用等については、各家庭の負担となるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 「Microsoft365」については、導入する機器に付帯するもので、各家庭による金銭的な負担はない。
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> IT機器に苦手意識を持っている教員もいるはずであり、導入にあたっては、先生の不安や苦手意識の解消を図るような工夫をとったうえで、授業でより良い活用ができるよう取り組んでもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 機器の操作については、導入時に納入業者による研修会を開催する予定である。その後も、実際に使用したうえで感じた疑問等について対応できるよう、教育委員会として研修会等の充実を図っていく。
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の活用により、今後は授業での動画利用等がますます進んでいくものと思われる。 先生たちにとっては、これまで以上に児童・生徒への声掛けや励ましといったコーチング的指導が求められることから、デジタル機器とアナログな声掛けをうまく結びつけた指導ができるよう、デジタル時代に即した教員育成にも力を注いでもらいたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場においては、タブレット端末等のデジタル機器の活用が当たり前になりつつあり、私たちもその潮流を捉え、効果的な活用を図っていく必要がある。 デジタル機器を活用した授業については、良い活用事例を他校へも横展開し、教員同士で情報の共有化を図ったうえで、試行錯誤しながら効果的な授業実践に向けて取り組んでいってほしい。
鈴木教育長	<ul style="list-style-type: none"> 授業のデジタル化の推進においては、教員のスキルアップについても非常に重要な要素だと考えており、教員へのサポートも踏まえ、教育委員会として力を入れて取り組んでいく。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 他にはよろしいか。 次に、報告事項の(2)「中央小学校・星宮小学校の再編成に係る

	進捗状況」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<資料4により説明>
議長	・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
岸田委員	・両校の再編成にあたっては、各校の個人情報扱う場面も多々あると思われる。個人情報の取扱いやその引継ぎについては、細心の注意を払い進めてもらいたい。
鹿山委員	・実際の引っ越し時については、重要書類等の紛失等には特に気を付けていただきたい。 ・新たなジャージについては、何年度から切り替わるのか。
事務局	・標準的なジャージは新たなものとなるが、一斉に新たなジャージに切り替わる形ではなく、数年はこれまでのジャージも利用可能としている。
大澤委員	・ジャージについては、子どもたちが日頃から長時間着用することから、細かい点まで配慮し、より良いものを選定すべきである。今回導入する新たなジャージの検討については、どのようなプロセスで行われたのか。 ・かつて新たな校歌を作製する際には、地域に合った歌詞の文言を検討するなど、児童・生徒にとって身近なもの、誇りを持てるものとなるような工夫を図ってきた。今回はどのような検討を行う予定か。
事務局	・新たなジャージの選定にあたっては、各検討部会において、学校、地域、保護者の意見を踏まえたうえで決定している。また、ジャージの形状についても安全性を十分に考慮したものとなっている。 ・校歌については、これまでの両校の校歌を十分に尊重したうえで作製いただくよう、今後依頼する予定である。
議長	・新たなジャージ及び校歌のいずれについても、せっかく新たなものを作るので、ぜひ良い形となるよう取り組んでもらいたい。
議長	・他にはよろしいか。 ・次に、(5)「その他」について、事務局から連絡事項等があればお願いします。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の総合教育会議は、1月下旬から2月上旬に開催を予定している。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・北河原小学校及び須加小学校の今後の在り方については、統合、編入、自由選択を含めて、多方面から検討を進めてもらいたい。 ・令和4年度には複式学級の解消を図っていかなければならないこともあり、2年後に向けてスケジュール管理をしっかりと行い、一つ一つ順序立てて取り組んでいってもらいたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、教育委員の皆様から何かあればお願いします。 ・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力賜り、誠にありがとうございました。 ・それでは、これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、令和2年度第2回行田市総合教育会議を閉会とする。
<p>< 閉 会 ></p>	